

# もりふれ倶楽部通信 NO.52

## ツキノワグマの現状、そして100年後は？

NPO法人もりふれ倶楽部 理事 池田友紀

昨年5月末から6月にかけて大きく報道された、秋田県でのツキノワグマ襲撃事件（十和利山熊襲撃事件）。4人が死亡するという、ツキノワグマとの人身事故としては異常事態ともいえるこの事故は、みなさまの記憶にも新しいことと思います。

ところが、今年も時を同じくして秋田県で死亡事故が起こり、1名の女性が亡くなりました。さらにこのところ連日、ツキノワグマとの人身事故や目撃ニュースが相次いで報道されているため、「またか」と、この異常事態を日常の出来事とはき違えてしまうくらいの感覚に陥ってしまっているようです。

このようにツキノワグマとの接触事故が増えているということは、その個体数が増えているのではないかと推測されます。

実際、島根県を含む「西中国地域」では図1のように個体数は増加してきているという調査結果が出ています。しかし、ツキノワグマのように森林内に棲み、広い行動範囲をもつ野生動物の個体数を調べるのは大変難しいので、数値はあくまで推定です。

	第1回調査	第2回調査	第3回調査
調査期間	1998～1999年度 (H11～H12)	2004～2005年度 (H16～H17)	2009～2010年度 (H21～H22)
推定個体数 (西中国山地脊梁地域)	161.0頭±68.8頭/km <sup>2</sup>	154.0頭±63.8頭/km <sup>2</sup>	203.0頭±97.9頭/km <sup>2</sup>
平均推定生息密度 (標準偏差)	0.31±0.13頭/km <sup>2</sup>	0.29±0.12頭/km <sup>2</sup>	0.39±0.20頭/km <sup>2</sup>
推定生息頭数 (中央値)	約280～680頭 (約480頭)	約300～740頭 (約520頭)	約450～1290頭 (約870頭)

図1 西中国地域におけるツキノワグマの推定生息数の推移  
出典：島根県中山間地域研究センター

また、これまでツキノワグマを見ることのなかった地域での目撃が増えているということは、生息域が拡大してきているという傾向を示していますが、それは個体数の増大を反映したというだけでなく、本来の生息地の自然環境が悪化している可能性も考えられるのです。

そのため、クマの目撃数が増えたからといって個体数が増加したと簡単に言い切ることは危険であり、地域によって違いがあるということを確認しておかなければなりません。

ここであらためてツキノワグマがどういった動物かを、ご紹介したいと思います。

ツキノワグマの大きさは個体差はありますが、頭胴長(鼻先から尾の付け根まで)110cm~130cmで、体重は50kg~70kgであり、実際の大きさを見ると「意外と小さい」との意見がほとんどです。人は怖いと思うもの、畏敬の念をもつものに対しては大きくみえるという心理が働いているからかもしれません。

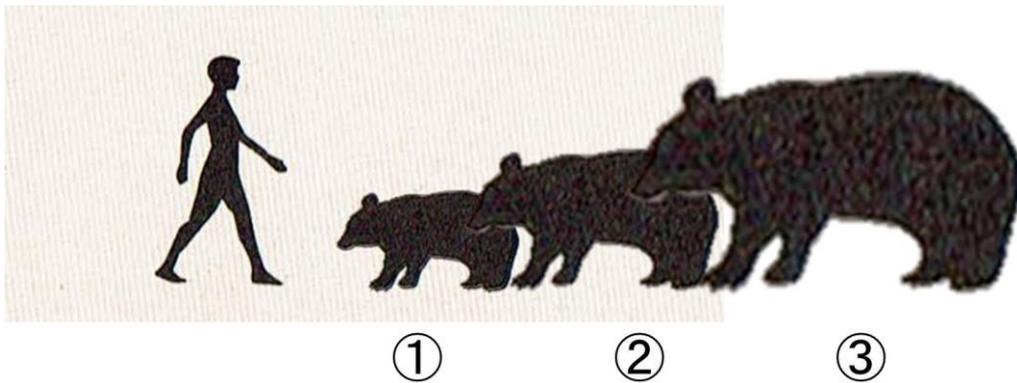


図2 クマの大きさ比較

(①=ツキノワグマ、②=ヒグマ、③=ホッキョクグマ)

出典：日本動物大百科1より改訂

ツキノワグマの食性は一般的に「雑食」と表現されますが、より正確に表現するならば「昆虫や他の動物の死骸等も食べるけれど、植物への依存度が高い雑食」といえます。肉食のために積極的に動物を襲うことはなく、手に入れば食する程度です。

報道で「人食い熊」などと恐怖心を煽る表現がされることがありますが、日本におけるクマによる食害事件は、北海道にのみ生息するヒグマによるものがほとんどです。

このように、ツキノワグマに対して過剰に怖がることはないのですが、やはりばったりと出会いたくはないものです。

ツキノワグマが出没する地域では、農林業への被害や人身事故の危険にさらされることから、クマを駆除してほしい、との声が大きくなっています。島根県では昨年度(平成28年度)、有害捕獲によって補殺されたツキノワグマは56頭(暫定値のため、変動することがあります)と、過去10年間で最大数となってしまいました。

よく「山にドングリのなる木がなくなったせいで、食べ物を求めて人里に下りてくるようになった。」ということが言われていますが、ドングリのなる木が減ったのは全国で一斉にスギやヒノキの人工林を増やしていった1960年~70年代のことです。

たしかに、ドングリなどの堅果類の豊凶と、クマの人里への出没は関係があるようですが、ツキノワグマが人里に出てくる「大量出没」がおこるようになったのは2000年代に入ってからであり、原因の一つとして考えられているのは「中山間地域」の衰退です。

ほんの20年~30年前までは山に近い場所でも田畑を耕し、草刈りを行ない、薪や落ち葉などの燃料や山菜やきのこをとるためにひんぱんに山に入っていました。また、田畑を守るために積極的に野生動物を追い払っていたため、クマの警戒心も強かったと思われます。

現在は過疎化によって中山間地域に住む人が少なくなってしまう、手入れのされない荒れた農耕地が増え、野生動物を追い払う人もいなくなったため、奥山と人里との境界があいまいになってしまいました。そうして、クマがより人里に近づきやすくなっているようです。

生活スタイルが変わった今、昔のように中山間地域を活性化させようというのは無理がありますので、意識して対策をとる必要があります。出荷しない果実や野菜を畑に捨てない、生ごみを野外に放置しない、倉庫に置いた農作物や家畜飼料などの管理に注意するなどして、クマの誘引物をなくすための環境を整える。また、山との境界の草刈り、場合によっては電気柵の設置など、クマの出没を防ぐためには集落ぐるみでの対策が必要です。

都市部に住む人であっても「自分のところには出てこないから関係ない」と切り捨てるだけでなく、保全活動を行なっている団体を応援する、積極的に関連イベントに参加するなどしてみると良いかと思います。そうして得たツキノワグマに関する正しい知識と認識をもって、周りの人にも伝えていってほしいと思います。

## 人とクマ共存へ 山林をお手入れ

飯 南

人の活動領域にクマを近づけないための作業をするイベントが25日、ツキノワグマが生息する飯南町であった。主催したNPO法人「もりふれ倶楽部」(松江市)のスタッフも含め約30人が参加し、山を整える作業にあたった。

ネイチャーガイドの池田友紀さん(37)が「5〜7月のクマは繁殖活動の最中」と説明し、ツキノワグマの大きさに切り抜いた、両腕



を広げたほどの長さの布を見せた。その後、近くの山林へ。出雲西高校の生徒らが授業の一環でカヤの木を伐採した斜面で、散らばった枝を集めて整頓した。こうして人手が入ればクマは人間の領域だと察して近づかないという。

家族と参加した松江市の会社員坪田崇さん(52)は「自然に生かされている人間だから、クマとも共存共栄がはかれたらいい」、同市の内田百合子さん(65)は「人が山をきれいにすればクマを近づけないようにできる、と知ることができてよかった」と話した。

(木脇みどり)

図3 2017年6月25日に実施したイベントを伝える記事 朝日新聞(2017.6.26)

ツキノワグマの大量出没に伴って、長野県や東北地方の一部では、「新世代グマ」と呼ばれる、人を怖がらずむしろ近寄ってくるクマが現れるようになってきています。「人間の近くには食べ物がある。」と学習したクマではないかと言われており、被害の増加にもつながっています。

幸い西中国地域でそのようなツキノワグマは確認されておりませんが、このままなんの対策もせず、また「クマは肉食で人を襲う恐ろしい動物」という極端なイメージをもってびくびくして避けているのは、クマはいずれ人慣れしてしまい、いつ新世代グマとなって島根県にも現れるかわかりません。

人の暮らしとクマの保全の両立を図ることは難しいことであり、「この対策をすれば万事解決！」といえる対策はないのですが、昔から共存を図ってきたからこそ現代の日本にもツキノワグマが生存しているといえます。時代や地域によってとらえ方は異なるでしょうが、クマがいるということは、豊かな森だということであり、その森から恵みを受けて生きているということをも人々は認識し、クマを神聖な生きものとして捉えてきました。

「怖い」、「危険」などのイメージで駆除が進み、将来、「島根はもうクマがいなくて安心して森林散策できるよ。」などという未来は考えたくないものです。10年後、20年後、さらには100年後にも「島根はクマとの共存を図って対策をしっかりとってきたから、棲み分けができて安心して森林散策できるよ。」と言えるように、微力ながら自分ができることを考えて実行していこうと思います。

## 冒険の森てんばプロジェクト

里山笑楽校

代表 多久和 厚

私の住む雲南市大東町山王寺は全国棚田百選の一つとして美しい景観を保っています・・・と述べたいところですが景観を保つことが限界に達しようとしています。既に、棚田 200 枚面積 19ha の 40%は耕作放棄地となっています。

そんなに耕作放棄が広がって現地はさぞかし困っておられるのでは、といった心配はご無用！何も困っていません。米を作っても儲かるわけではありません。棚田は手間がかかって大変なんです。耕作をやめたからといって破たんすることはありません。自給用の田畑はありますから食うのに困りません。ご先祖様から預かった田畑を自分の代で荒らすのは申し訳ないという思いだけで何とか保っています。



### 耕作放棄が拡大すると誰が困るのか

そう、消費者が困るだけです。言い方を変えると下流域に住む二次産業、三次産業の都市住民の皆さんが困るのだけです。国内がダメなら貿易黒字分で農産物を輸入すればいい、なんて声が聞こえてきそうですが一次産業が衰退する国家に自立した繁栄などありません。

食料の問題だけではありません。森林も荒れ放題。これも農地と同じで地権者はなにも困っていません。手を出せば損失がでますから放置が最大の策です。

農地や森林の荒廃は深刻な問題ではあるのですが、現地（上流域）とその影響を受ける地域（下流域）との関係性が薄いのでお互いに無関心なのです。例えば、斐伊川上流域の雲南・奥出雲地域の産物は東京、大阪などの都市部の市場に出荷され下流域の松江のスーパーには全国の産物が並びます。産直コーナーもあります。大型店は自ら銀行をもっていますからお金は吸い取られように都市部に流れていきます。これでは、お互いの関係性は極めて薄くなります。

結果どうなるのかというと農村の経済は疲弊し若者は流出して耕作放棄が増える、それは下流域の環境問題にも影響を与えることになります。私の住む山王寺は斐伊川水系の上流域に位置するので環境の悪化は宍道湖・中海へと影響を与える事になるのです。

まずは、お互いの交流が必要である。

経済効率だけを追い求めたグローバル社会は、いつか足元から崩壊する時が来ます。環境という切

り口では上流と下流の交流、経済という切り口では都市と農村の交流が必要です。まずはお互いに関心を持ち関係性を築くことが必要なのです。

さて、ここから表題の「冒険の森てんばプロジェクト」についてお話ししたいと思います。都市と農村の交流拠点として「冒険の森てんば」を開設しました。

### 「冒険の森てんば」って何？

拠点となる場所の屋号を「てんば」（天場）といいます。家主は、高齢の為に移転されました。この場所は、島根大学古墳データベースに「天場古墳」として登録されています。古墳があると考えられます。母屋、納屋などの家屋の敷地面積は 300 m<sup>2</sup>、田んぼは 900 m<sup>2</sup>、森、竹林、耕作放棄地は 9000 m<sup>2</sup>あります。（合計：約 1 万 m<sup>2</sup>）「てんば」は棚田が眺望できる高台にあります。森は子供たちが飛び回って遊ぶには最適な場所です。

### 空き家は資源

空き家には放置された森と耕作放棄地がセットになって隣接しています。この三点セットの増加は全国的な課題です。

本プロジェクトは、空き家となってしまった古民家（山王寺では最も歴史のある村上家）を借り上げ、地域課題である「三点セット」を地域資源と考え、再生することを目指してスタートしました。（平成 28 年 4 月）環境整備には多くのボランティアの手をお借りしました。感謝申し上げます。

### ボランティアのみなさんによる環境整備



### 冒険の森てんば迎賓館



## 具体的な活用方法

- ①「森のようちえん」を開催します。月に4回程度「森のようちえん」づくりを目指すママさんグループが利用しています。



- ②「森のオフィス」として企業の研修に利用してもらいます。WiFiの環境を準備しました。IT企業が半仕事半BBQといった使い方が出来ます。その他、宿泊を伴う農業研修などを想定しています。

## 企業のプロジェクト立ち上げ



## 地域の研修



③「森のレストラン」として本年の4月1日に棚田カフェを開店しました。棚田を眺めながら食事をさせていただきます。



さて、結論です。

「冒険の森てんば」で実現したいことは「都市と農村の交流をはかる」ことです。その為の拠点として活用します。棚田カフェをオープンしたことで来訪者は月に200名を超えています。大半が松江など市外なので交流人口は格段に増えています。これからのテーマは交流が増えることで移住に繋がり「若者が暮らせる里山」が出来ることです。その為には棚田で生み出される地域資源を活用した六次産業化を進める必要がありますが、その鍵は「まこも」です。この事については機会をいただけるなら次回にお話しします。結果として耕作放棄が減り活力ある地域になっていくと信じています。

# 平成29年度 もりふれ倶楽部の歩み

## 4月8日(土) 森林ボランティア(尾原ダム周辺)

NPO法人さくらおろちとの協働事業として、奥出雲町尾原ダム周辺においてコハウチワカエデ 30本の補植作業を行いました。

メンバー 野田真幹、野々村俊成、土山幸延、内田百合子、藤原人美



## 4月22日(土) 森林ボランティア(赤屋小学校)

安来市立赤屋小学校学校林において、「1日限りの作業班」シリーズの一環として、枝打ち作業を行いました。

メンバー 野田真幹、野々村俊成、内田百合子

## 4月22日(土) 第1回大人のための自然観察会

ふるさと森林公園において、第1回大人のための自然観察会を開催しました。 指導 中村正志

## 4月24日(月) しまね森づくり Kommission 出前講座1(赤名小学校)

飯南町立赤名小学校において、5、6年生19名に対して、「森林保全の大切さ」の講義と和紙づくり体験の指導を行いました。

指導 野田真幹、藤原人美



## 4月24日(月) 出雲西高等学校対応

出雲西高等学校において、環境福祉コース3年生35名に対して、環境の授業の中で、池田友紀氏が「ツキノワグマ」をテーマに講義を行いました。また、体験コーナーで、野々村俊成氏が竹トンボづくりの指導を行いました。

指導 野々村俊成、池田友紀、宮崎徳子

## 4月25日(火) しまね森づくり Kommission 出前講座2(北三瓶中学校)

大田市立北三瓶中学校において、2、3年生12名に対して、「森林保全の大切さ」の講義と「樹木観察」「飾り炭」の指導を行いました。

指導 野田真幹、池田友紀、宮崎徳子



## 4月29日(祝・金) 森の誕生日2017

島根県・島根県緑化推進委員会・宍道湖西岸森と自然財団・NPO法人もりふれ倶楽部が、共同主催で「森の誕生日2017」を開催しました。約7,500人が来場し、ステージを含め、森の大切さをPRする様々なイベントが行われました。その中で、今年も、350人の参加者に学習展示館で普及啓発イベントを行いました。

スタッフ 平野秀子、別木健一、洲濱寿晴、伊藤志美恵、森下美津子、中尾篤志、内田百合子、青木宜雄、遠藤和則、遠藤訓子、三枝綱一、福岡茂明、大峠百代、竹下健二、穂井田頼、三枝共子、野々村俊成、池田友紀、中村正志、響繁則、近藤純子、高橋恭子、野田真幹、藤原人美、小林玲子、宮崎徳子



## 4月30日(日) 森林ボランティア(楽山公園)

松江市楽山公園において、「1日限りの作業班」シリーズの一環として、松江環境市民会議のメンバーと竹の整備を行いました。

メンバー 福岡茂明、別木健一、内田百合子、安達宏史、三島節夫

### 5月3日(祝・水) 森林ボランティア(赤屋小学校)

安来市赤屋小学校学校林において、「1日限りの作業班」シリーズの一環として枝打ち作業を行いました。

メンバー 野田真幹、野々村俊成、別木健一、内田百合子



### 5月4日(祝・木) 森林ボランティア(高山小学校)

安来市赤屋小学校学校林において、「1日限りの作業班」シリーズの一環として、枯損木の伐倒と片付け作業を行いました。

メンバー 野田真幹、野々村俊成、穂井田頼、別木健一

### 5月4日(祝・木) 第2回大人のための自然観察会

ふるさと森林公園において、第2回大人のための自然観察会を開催しました。 指導 中村正志

### 5月7日(日)第1回里山自然塾

島根県主催の第1回里山自然塾「山菜や野草を食べ、里山を考える！」を参加者32名で実施させていただきました。

講師 野田真幹、響繁則、中村正志、池田友紀

スタッフ 藤原ひとみ、宮崎徳子



### 5月8日(月) しまね森づくり Kommission 出前講座 3 (本庄中学校)

松江市立本庄中学校全校生徒47名に対して、「森林保全の大切さ」の講義を行いました。

指導 野田真幹、宮崎徳子

### 5月10日(木) しまね森づくり Kommission 出前講座 4 (阿井小学校)

奥出雲町立阿井小学校4~6年生20名に対して、ゲスト講師に国土防災技術株式会社執行役員で土壌の専門家の田中賢治氏を迎えて「森林作業体験指導」を実施しました。 指導 田中賢治、響繁則、野田真幹



### 5月11日(木) しまね森づくり Kommission 出前講座 5 (玉湯小学校)

松江市立玉湯小学校特別支援学級10名、大谷小学校特別支援学級1名に対して「間伐材の和紙づくり体験」の指導を行いました。

指導 戸谷広子、藤原人美



### 5月11日(水) しまね森づくり Kommission 出前講座 6 (匹見中学校)

益田市立匹見中学校全校16名に対して、「森林保全の大切さ」の講義と「間伐材の和紙作り」の指導を行いました。 指導 野田真幹、高濱実樹恵



### 5月13日(土) 奥出雲町立阿井小学校対応

奥出雲町立阿井小学校全校児童64名に対して、森林教室をおこない、島根県森林インストラクターの野田真幹氏の「森林保全の大切さ」を伝える話と島根県森林インストラクター野々村俊成氏等による「木切れ工作」の指導を行いました。1年~6年生混成の班に分かれ、それぞれ島根県森林インストラクター4名の指導により、動物等を作成しました。

指導 野田真幹、野々村俊成、内田百合子、藤原人美

### 5月13日（土）しまね森づくり Kommission 出前講座7（本庄中学校）

松江市立本庄中学校全校生徒47名に対して、松江市枕木山において「樹木観察」の指導を行いました。

指導 中村正志、池田友紀



### 5月14日（日）森林ボランティア（楽山公園）

松江市楽山公園において、「1日限りの作業班」シリーズの一環として、松江環境市民会議のメンバーと竹の伐採と片付けを行いました。

メンバー 野田真幹、野々村俊成、中村正志、別木健一、景山栄一  
安達宏史、三島節夫



### 5月15日（月）飯南町立来島小学校対応

飯南町立来島小学校1, 2年生24名に対して、島根県森林インストラクターでネイチャーガイドの池田友紀氏により、森林や自然と親しむ自然体験の指導を行いました。 指導 池田友紀 宮崎徳子



### 5月18日（木）しまね森づくり Kommission 出前講座8（掛合小学校）

雲南市立掛合小学校において、5年生28名に対して、「森林保全の大切さ」の講義と「飾り炭作り」、3年生26名に対して「森林保全の大切さ」の講義と「木切れ工作」、4年生27名に対して「森林の大切さ」の講義と「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。 指導 野田真幹、藤原人美



### 5月19日（金）しまね森づくり Kommission 出前講座9（玉湯中学校）

松江市立玉湯中学校において、3年生40名に対して、「森林保全の大切さ」の講義と「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。

指導 野田真幹、宮崎徳子



### 5月19日（金）しまね森づくり Kommission 出前講座10（古江小学校）

松江市立古江小学校5年生45名に対して、2コマ×2回に分けて、「森林保全の大切さ」の講義と「和紙作り」の指導を行いました。

指導 野田真幹、野々村俊成、藤原人美



### 5月21日（日）県民の森ふれあい講座

しまね県民の森ふれあい講座 第1回「新緑の森の散策、野草の天ぷらを食し野草茶を飲む」を実施しました。

指導 野田真幹、中村正志、池田友紀、藤原人美

### 5月23日（火）セーブジャパン対応（出雲西高等学校）

飯南町来島の山林において、出雲西高等学校環境福祉課コース34名に対して、「ツキノワグマと同じ時代に生きている幸せ」をテーマに、2グループに分かれてツキノワグマと人との緩衝帯を作るための作業と、ツキノワグマが好きな植物を巡る散策を、おこないました。 指導 野田真幹、野々村俊成、池田友紀、宮崎徳子





### 5月24日(水)しまね森づくり Kommission 出前講座 1 1 (志学中学校)

大田市立志学中学校において、全校生徒8名に対して、「森林保全の大切さ」の講義と「和紙づくり体験」の指導を行いました。

指導 野田真幹、宮崎徳子

### 5月25日(木)しまね森づくり Kommission 出前講座 1 2 (赤屋小学校)

安来市立赤屋小学校3年生～6年生22名、1, 2年生7名に対して「森の大切さの講義」、「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。

指導 野田真幹、野々村俊成、池田友紀



### 5月25日(木)しまね森づくり Kommission 出前講座 1 3 (四絡小学校)

出雲市立四絡学校4年生103名に対しては、林業技士の野田真幹氏が「森林保全の大切さ」の講義を行いました。

指導 野田真幹、宮崎徳子



### 5月30日(火)しまね森づくり Kommission 出前講座 1 4 (浜田第2中学校)

浜田市立第2中学校1年生50名に対して、森に名手・名人故栗栖誠氏の山林で、「森林保全の大切さの講義」と「ネイチャーゲーム指導」を午前・午後2交替で実施しました。

指導 野田真幹、池田友紀



### 5月31日(水)しまね森づくり Kommission 出前講座 1 5 (八雲中学校)

松江市立八雲中学校1年生59名に対して、2コマ×2回に分けて、「森林保全の大切さ」の講義と「和紙作り」の指導を行いました。

指導 野田真幹、藤原人美



### 5月31日(水)しまね森づくり Kommission 出前講座 1 6 (西日登小学校)

雲南市立西日登小学校3, 4年生12名に対して、「森林保全の大切さ」の講義を行いました。指導 野田真幹、藤原人美

## もいふれ倶楽部今後の予定2017

## 7月～10月

7月15日(土) 10時～15時 森林ボランティア1日限りの作業班：布部小竹林整備

☆参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給

持ち物～軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け・ある方は、ヘルメット・チェーンソー・鋸等

集合場所：安来市立布部小学校駐車場

前日正午まで申し込を、お受けします。会員の方には、交通費補助2千円を支給します。場所のわからない方はご相談ください。要事前申し込み。

7月17日(月・祝) 10時～15時 森林ボランティア1日限りの作業班：江津東小・下刈り

☆参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給

持ち物～軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け・ある方は、ヘルメット・刈り払い機・鎌等持参ください。

集合場所～江津東小学校駐車場

前日正午まで申し込お受けします。会員の方には、交通費補助 2 千円を支給します。場所のわからない方はご相談ください。

7月23日(日) 10時～15時

森林ボランティア1日限りの作業班：ふるさと森林公園内植樹苗下刈り

☆参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給

持ち物～軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け・ある方は、ヘルメット・刈り払い機・手鎌

集合場所：ふるさと森林公園学習展示館

前日正午まで申し込をお受けします。会員の方には、交通費補助千円を支給します。要事前申し込み。

8月5日(土) 10時～15時 森林ボランティア1日限りの作業班：布部小竹林整備

☆参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給

持ち物～軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け・ある方は、ヘルメット・チェンソー・鋸等

集合場所：安来市立布部小学校駐車場

前日正午まで申し込を、お受けします。会員の方には、交通費補助 2 千円を支給します。場所のわからない方はご相談ください。要事前申し込み。

8月6日(日) 10時～15時 第4回 里山自然塾「大人も子どもも里山で夏休み！竹筒ご飯カレーと虫やどうぶつのワンダーランドづくり」

☆参加者募集中：参加費500円 場所：ふるさと森林公園学習展示館と園内

持ち物～飲み物・昼食 定員25名(申し込み順)

8月19日(土) 9時30分～11時30分 ふるさと森林公園学習展示館集合

自然観察会(自然を撮ろう！カメラを持って集まろう！)。植物を学びたい方も是非。

森林インストラクター中村正志氏が、感動的な自然との出会いへご案内します。

☆参加者募集中：参加費100円 持ち物～カメラ持参をお勧め

前日正午まで申し込みをお受けします。

8月20日(日) 10時～15時 飯南町県民の森「木工講座」

「間伐材の丸太で動物をつくる！」

☆参加者募集中：参加費500円 場所：県民の森木工室

持ち物～飲み物・昼食 定員20名(申し込み順)

9月2日(土) 10時～15時 森林ボランティア1日限りの作業班：竹の伐採と片付け

9時50分 楽山公園テニスコート下駐車場集合

☆参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給

午後の作業の後に、竹焼き米粉ケーキでお茶をします。

持ち物～軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け・ある方はヘルメット・チェンソー・枝打ち鋸

前日正午まで申し込お受けします。会員の方には、交通費補助 2 千円を支給します。場所のわからない方はご相談ください。

9月3日(日) 10時～15時 第5回 里山自然塾「竹で焼く米粉ケーキと竹工作」

☆参加者募集中：参加費500円 場所：ふるさと森林公園学習展示館と園内

持ち物～飲み物・昼食（主食になるものは持参）定員25名（申し込み順）

9月9日（土）10時～15時 森林ボランティア1日限りの作業班：草刈りと枯損木の伐倒  
9時50分 布部小学校集合

☆参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給  
持ち物～軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け・ある方はヘルメット・チェーンソー・草刈り機・鎌・鍬等  
前日正午まで申し込お受けします。会員の方には、交通費補助2千円を支給します。場所のわからない方はご相談ください。

9月10日（日）10時～15時 森林ボランティア1日限りの作業班：下刈り  
9時50分 松江市立出雲郷保育園うぐいす山集合

☆参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給  
持ち物～軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け・ある方はヘルメット・草刈り機・鎌  
前日正午まで申し込お受けします。会員の方には、交通費補助2千円を支給します。場所のわからない方はご相談ください。

9月16日（土）9時30分～11時30分 ふるさと森林公園学習展示館集合  
自然観察会（自然を撮ろう！カメラを持って集まろう！）。植物を学びたい方も是非。  
森林インストラクター中村正志氏が、感動的な自然との出会いへご案内します。

☆参加者募集中：参加費100円 持ち物～カメラ持参をお勧め  
前日正午まで申し込みをお受けします。

9月17日（日）10時～15時 第2回飯南町県民の森「里山の憩い講座」  
「竹筒で炊く海ご飯と森ご飯・竹焼き米粉ケーキ・竹灯明・竹食器」

☆参加者募集中：参加費500円 場所：県民の森木工室  
持ち物～飲み物・昼食 定員20名（申し込み順）

9月18日（月・祝）9時～17時 森の健康診断（大田市仁摩町）  
8時50分 集合 仁摩公民館

☆参加者募集中：各グループ自然を楽しみながら2か所の調査をします 参加費500円  
持ち物～軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け・ある方はヘルメット・昼食・飲み物

お申し込み先：FAX 0854-82-5683 電話 090-6402-5242  
担当：伊藤様 記載事項～住所・氏名・生年月日・電話・FAX

9月24日（日）10時～12時 樹木医による樹木診断研修 松江市城山公園  
9時50分 県庁郵便局前集合

☆参加者募集中：樹木医の皆様が現地で丁寧に教えてくださいます。

9月30日（土）10時～15時 森林ボランティア1日限りの作業班：常緑樹の伐倒と片付け  
9時50分 楽山公園テニスコート下駐車場集合

☆参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給  
持ち物～軍手・飲み物・雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け・ある方はヘルメット・チェーンソー・枝打ち鋸・鍬  
前日正午まで申し込お受けします。会員の方には、交通費補助2千円を支給し

ます。場所のわからない方はご相談ください。

10月1日(日) 9時30分～12時30分 楽山公園～自然観察、竹細工広場、竹焼米粉ケーキ  
9時20分 楽山公園テニスコート下駐車場集合  
☆参加者募集中：1日中各自のペースで作業をします。参加費無料・昼食支給  
持ち物～雨天時は雨具・虫に弱い方は虫除け、場所のわからない方はご相談ください。

10月7日(土) 9時30分～11時30分 ふるさと森林公園学習展示館集合  
自然観察会(自然を撮ろう!カメラを持って集まろう!)。植物を学びたい方も是非。  
森林インストラクター中村正志氏が、感動的な自然との出会いへご案内します。  
☆参加者募集中：参加費100円 持ち物～カメラ持参をお勧め  
前日正午まで申し込みをお受けします。

10月8日(日) 10時～15時 第6回 里山自然塾「秋の里山でキノコ狩り！」  
☆参加者募集中：参加費500円 場所：ふるさと森林公園学習展示館と園内  
持ち物～飲み物・昼食(主食になるものは持参) 定員25名(申し込み順)

10月15日(日) 10時～15時 体験イベント「美しい森林づくり～赤屋小学校学校林」  
直接現地の方：9時50分 赤屋公民館集合(安来市立赤屋小学校近く)  
送迎バス利用者(無料)：8時15分 ふるさと森林公園学習展示館前  
9時 県庁郵便局前

☆参加者募集中：参加費1,000円 昼食代込  
内容：1. 学校林の枝打ち作業(安全帯を使用して5.5mまで)  
※高所が苦手な方は枝の片づけをお願いします。  
2. アウトドアクッキング(雨天時は室内)  
3. 専門家のわかりやすい森づくりのお話と高校生ボランティアの紹介  
定員 25名 但し送迎バスの利用は20名まで



**総会の日、今後森林での活用が期待されるドローンから撮影**

もりふれ倶楽部会報 NO. 52

〒699-0406 松江市宍道町佐々布3352

ふるさと森林公園学習展示館内 もりふれ倶楽部

TEL(0852)66-3586 FAX(0852)66-3586

[メール morifure@coffee.ocn.ne.jp](mailto:morifure@coffee.ocn.ne.jp)

ホームページ <http://www.morifure.jp/>